

1. 研修実施実績

医療的ケア児等コーディネーター養成研修及び医療的ケア児等支援者養成研修

- 実施期間：講義 令和5年1月16日、1月19日
(コーディネーター養成研修及び支援者養成研修共通)
演習 令和5年2月16日、17日
(コーディネーター養成研修のみ)

○実施機関：地域生活支援課

○養成実績 ※令和元年度は、堺市在住者を含む。

年度	令和元年度※	令和2年度	令和3年度	令和4年度	計
コーディネーター研修修了者	33	17	17	35	102
支援者研修修了者	128	132	105	119	484

1. 調査概要

調査時期 令和4年度（令和5年2月）

調査対象 大阪府内**43**市町村

調査内容

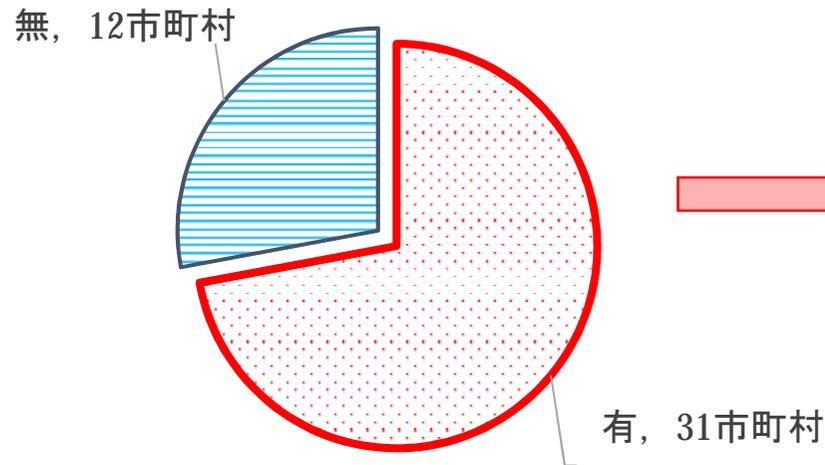
- ・令和4年度末時点での医療的ケア児等コーディネーターの配置の有無
- ・配置しているコーディネーターの配置場所、職種、活動内容、回数
- ・令和5年度以降のコーディネーター養成数、職種・今後に向けた課題等を選択式及び記述式にて回答

2. 配置状況（43市町村）

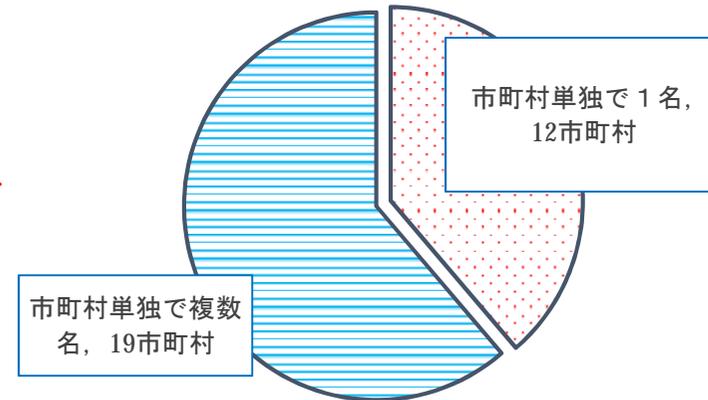
- ・ 配置有**31**市町、配置無**12**市町村（令和4年度末時点）
- ・ 配置有と回答した**31**市町村における配置形態・配置数
 市町村単独で配置・1名 **12**市町村
 市町村単独で配置・複数名 **19**市町村

医療関係、福祉関係の両方で配置ありと回答したのは**15**市

市町村における配置状況



コーディネーター配置有の内訳



【福祉関係の配置状況】（単位：市町村）

有	28
無	15
総計	43

【医療関係の配置状況】（単位：市町村）

有	18
無	25
総計	43

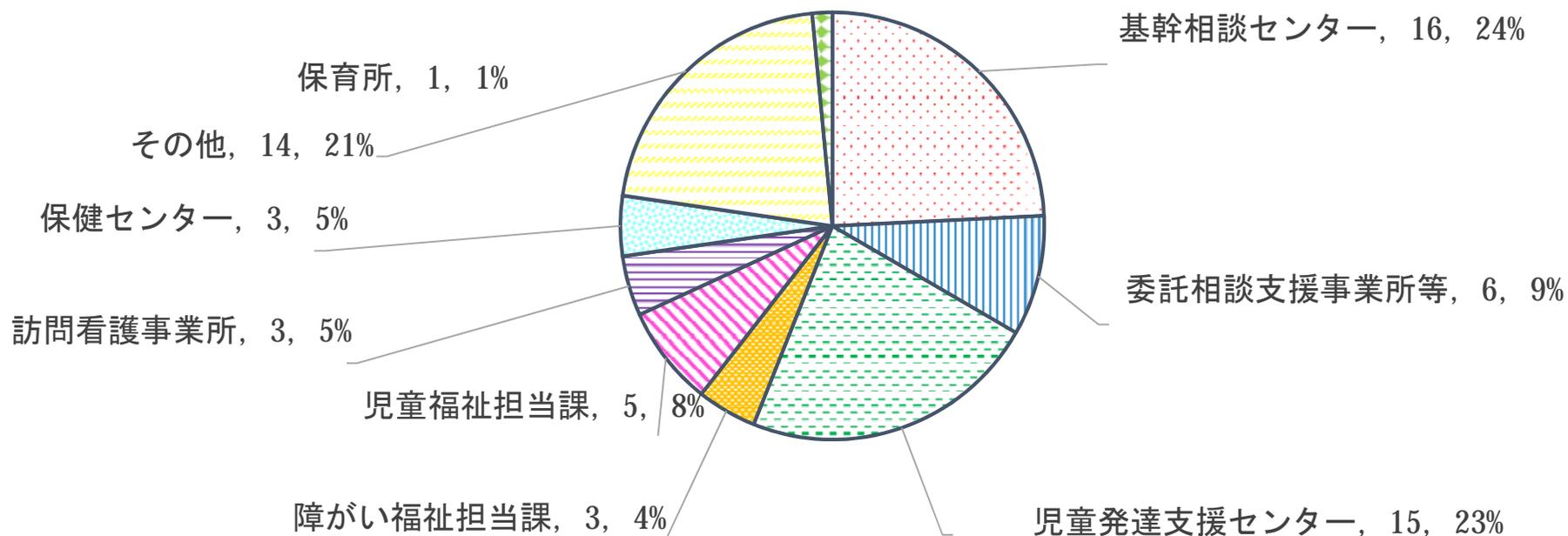
3. 配置場所（大阪市・堺市を除く41市町村）

・ 29市町村 66名 【令和4年度末時点】 ← 21市町村 34名 【令和3年度末時点】

- ・ 最も多いのは基幹相談支援センター、委託相談支援事業所であり、計**22**名。
昨年度調査においても、相談支援事業所に配置しているとの回答が最も多い。
配置場所の傾向は昨年同様であるが、配置事業所数は昨年度より増加している。

※大阪市、堺市は、それぞれ独自にコーディネーター養成研修を実施し、配置体制の考え方も異なることから、2市を除いて分析を行っている。

コーディネーターの配置場所（単位：人）



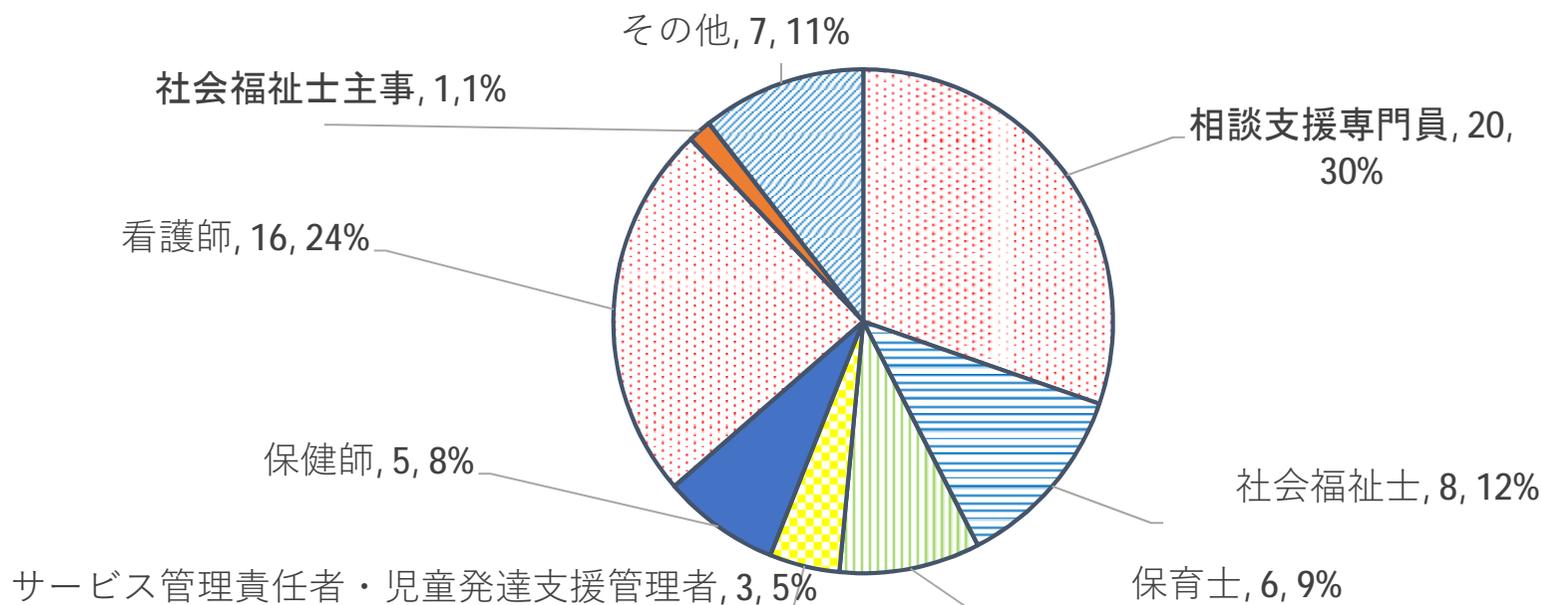
4. 配置職種（大阪市・堺市を除く41市町村）

- ・ **66名**の配置職種は、以下の円グラフのとおり。
相談支援専門員、社会福祉士、保育士を福祉関係として集計すると**34名**となり、全体の**51%**となっている。（昨年度調査では**20名58%**）
- ・ 看護師、保健師の医療関係は**21名32%**（昨年度調査では8名で全体の**24%**）となっている。
- ・ 市町村が、今後配置を予定している職種は以下の回答であった。

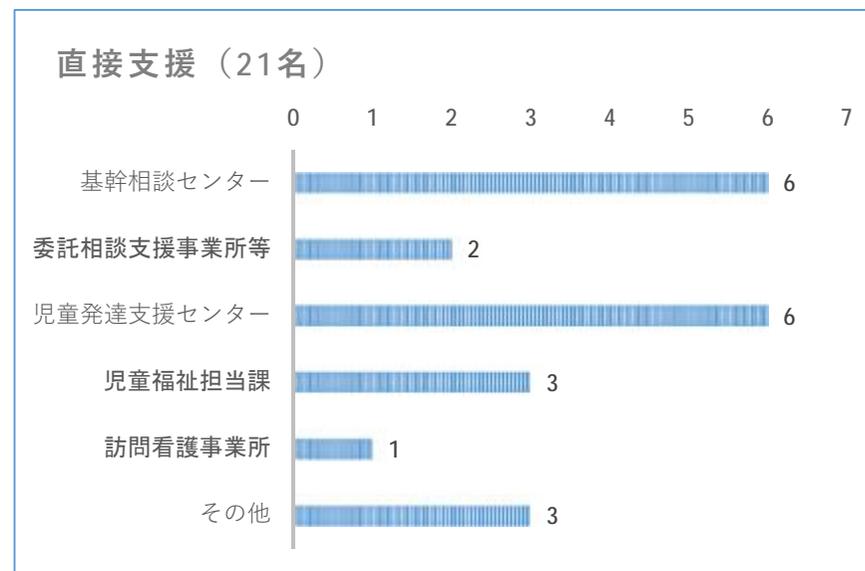
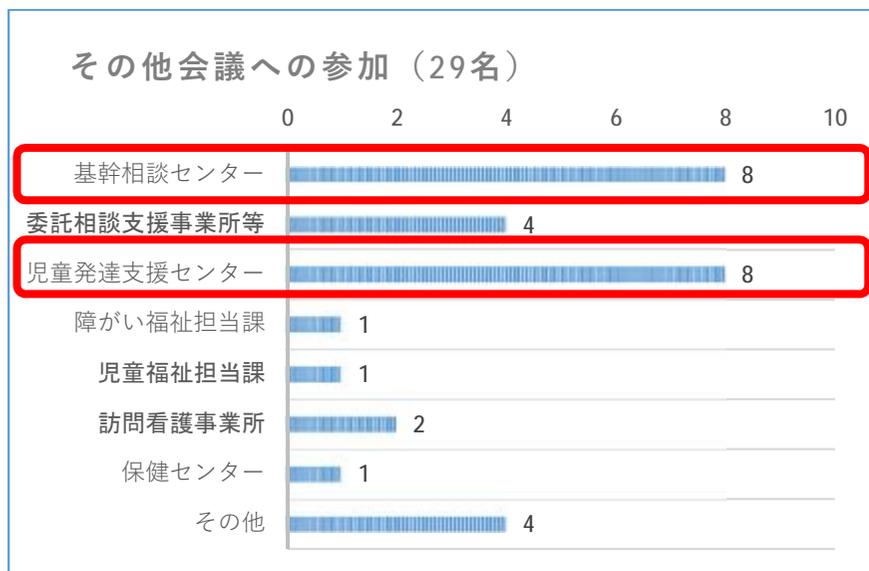
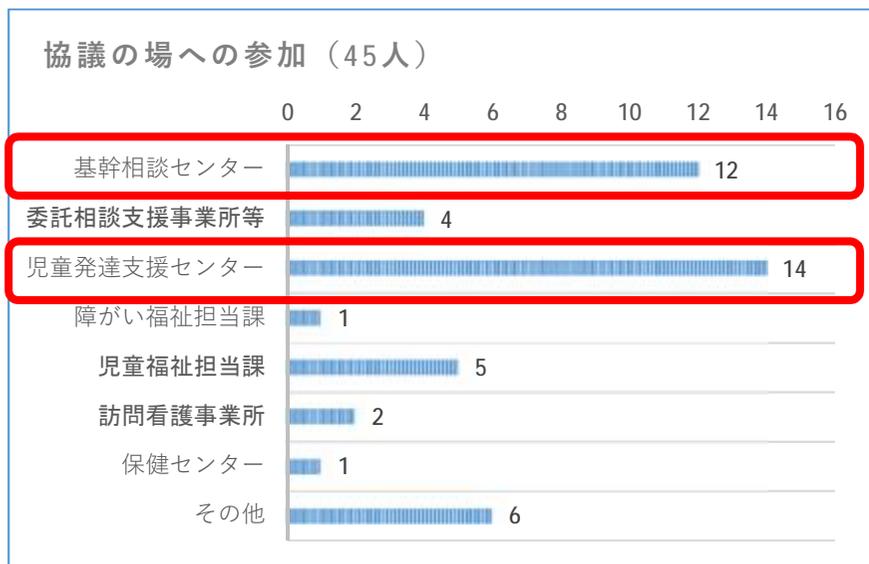
職種	看護師	相談支援専門員	保健師	社会福祉士	保育士	その他
人数	7	7	4	4	2	6

- ・ 各市町村で医療関係職種の配置が増加しており、今後も半数程度は医療関係者が配置される見込み。

コーディネーターの配置場所



5-1. 活動内容（大阪市・堺市を除く41市町村） 複数回答あり



6. 医療的ケア児等支援者との連携（41市町村）

- ・各市町村の医療的ケア児等コーディネーター（福祉関係・医療関係）の配置状況は以下のとおり。
- ・併せて、大阪府では、医療的ケア児等支援者として、国が規定する研修カリキュラムに加え、アセスメントのポイントや、支援チームづくり、コーディネーターとの連携等の講義を追加し、医療的ケア児等の個別のサービス等利用計画を作成する相談支援専門員や直接支援に携わる支援員等を養成してきた。各市町村ごとの修了者数は以下のとおり。
- ・今後、各地域の支援者とコーディネーターが連携して、地域を支える仕組みを作れるよう、働きかけていきたい。

	コーディネーター（福祉）	コーディネーター（医療）	支援者（修了者数）		コーディネーター（福祉）	コーディネーター（医療）	支援者（修了者数）
岸和田市	1	1	16	門真市		1	7
豊中市	2	2	31	摂津市	1		10
池田市	2	1	9	高石市	3		3
吹田市	1		39	藤井寺市			4
泉大津市	1		11	東大阪市			64
高槻市	2	2	28	泉南市	1	2	9
貝塚市	1		5	四條畷市			8
守口市	1	1	10	交野市			9
枚方市	1		8	大阪狭山市	1		7
茨木市	1	1	22	阪南市	2	1	13
八尾市			17	島本町			8
泉佐野市	1	1	21	豊能町			
富田林市	6	1	6	能勢町			
寝屋川市	1	1	16	熊取町	1		5
河内長野市	1	1	14	田尻町		1	3
松原市	2		6	忠岡町			2
大東市	2		14	岬町	1		
和泉市	1	2	17	太子町			1
箕面市		3	10	河南町			
柏原市	2		7	千早赤阪村			
羽曳野市	5		7	計	44	22	467（※）

※事業所所在地等で集計。従事予定等（17名）を除く。

7. 今後の展望

◆令和5年度の配置予定

- ・ 令和5年度に福祉関係の配置を完了すると回答したのは**35**市町村。
医療関係の配置を完了すると回答したのは**22**市町村。
- ・ 令和5年度中に、いずれも配置予定なしと回答したのは5市町村。

◆活動の課題

- ・ コーディネーターの認知が不十分で、さらなる周知が必要。
- ・ コーディネーターの役割として、退院から在宅生活への支援について、保健所との役割分担が必要。
- ・ 市町村規模によって、コーディネーターの活動が、その他業務との兼務が難しい。
- ・ コーディネーターの人材確保、異動した場合の対応。
- ・ 市によって、コーディネーターが担う役割等にばらつきがある。

(参考：R3調査にて指摘されていた課題)

- ・ 未配置の市町村の解消（役割の明確化、人材不足）
- ・ 「コーディネーターが周知されていない」、「浸透していない」
- ・ 医ケア児支援に関する各市町村の実態や課題の整理
- ・ コーディネーターのブラッシュアップ、フォローアップ、実践報告等の機会の確保

◆要望

- ・ 継続的な医療的ケア児等コーディネーター養成研修の実施。
- ・ 実践事例等の情報共有。



- ・ 府民がコーディネーターの存在を認識し、相談しやすい体制づくり
- ・ コーディネーターの活動の課題の把握や情報共有の仕組みづくり（好事例の共有）
- ・ 支援人材の継続的な養成

参考：令和4年度 大阪府医療的ケア児等コーディネーター情報交換会

(内容)

大阪府医療的ケア児等コーディネーター養成研修修了者に対し、情報交換会を実施する。

(概要)

大阪府医療的ケア児等コーディネーター養成研修修了者が活動の情報交換を行うことにより府内市町村の医療的ケア児支援、コーディネーター活動の動向を共有する。同研修のフォローアップとして、研修時に作成した目標から、各市町村での活動における現状と課題、今後の取り組みについて整理する。なお、研修受講年度は市町村によってばらつきがあることや、進度が異なる市町村の情報を広く集約することを目的とする。(情報連絡会の概要を後日、市町村医療的ケア児等支援担当課に情報提供することで、市町村が主体的に課題検討を行えるよう支援する。)

(実施時期・方法)

日時：令和5年2月**27**日(月)午後1：**30**～5：**00**

(プログラム)

- ・コーディネーター配置・活動状況について情報共有
- ・講義「医療機関と市町村医療的ケア児等コーディネーターの連携について」
「医療機関との連携における市町村医療的ケア児等コーディネーターの役割について」
- ・演習「市町村医療的ケア児等コーディネーターと医療機関の連携について」

(参加者)

市町村医療的ケア児等コーディネーター **25**名